とまどう"新人生"

四百人が青空集会

和泉

新学期開始の十四日、和泉キャンパスは立て看で色どられた。正門横に「全学ストライキ突入の立て看。その脇には「本日休講」の小さな学長告示があった。

二年生はさすがに慣れ切った足どりで、サークル部室へ、クラス討論へ、集会へ、あるいは家路へと散って行った。

新入生は初日から「休講」という事態に直面し、困惑し切った様子でキャンパスをウロウロ。なかには「これからどうしたらいいんでしょうか」といって来る女子学生もいた。

また、文学部のある学生は「幻滅しました。紛争は起こっていなかったし、素朴な校風というものにひかれてきたのに……」と横目でタテカンをニラむ。「政治的見地ではなく、明大生として、理由もなく引っぱられた学友のことを考えると、機動隊のやり方に怒りを覚えます」（文＝男子）「授業を受けたい人には受けさせるべきだ。何か一部の指導者層に扇動されていて、下の者はエネルギーのはけ口として、機動隊と衝突したりしているのではないか」（法＝男子）とその受け取り方は様々である。

和泉地区の抗議集会は、正面入口付近で開かれ、中途より土屋哲和泉担当副学生部長も参加した。学生側は大学側のとった態度について追求を続け、和泉の学生の先頭に立って和泉担当責任者として本校の抗議集会に参加するよう求めた。これに対して副学生部長は教職員大会の決定事項であり、私としてはどうも出来ないという態度を一貫して通した。参加者は正午すぎから三〇〇人を超え、盛り上がりをみせたが、副学生部長が学長に学生と会うよう要請するということで打ち切り、約六〇人がデモを組んで午後一時三十分本校へ向かったか」と力説する。

（K）

生田

四月十二日の駿河台学生会館へ機動隊が不法乱入し、多くの学生を無差別逮捕した事件に抗議するため生田校舎でも神田本校や和泉に呼応して全学抗議集会が行なわれた。

今回の学校側の呼びかけた休講は、十三日日曜に全教職員を召集し即日討議・決議と緊急に運んだため、事情を知らずに登校した多くの学生はややとまどい気味。授業中止と知った学生は口々に不満の言葉をのべた「もっと早く知らせるべきだ」「何のための休講か告示だけではわからない」「もっと学生の意見を聞いて決めるべきだ」。しかし無関心組が多く、そのほとんどがそのまま帰宅した。九時、大学側から機動隊乱入による被害と多数の逮捕者、負傷者の出たことの報告とそのため本日の講義をやめて抗議集会を開くという事情説明があり、続いて校庭で「学生・教職員全生田統一抗議集会が開かれた。

この青空集会へ学生約、四〇〇名が参加し、壇上では学校側から出席した高木工、岩本農学部長ら工・農両学部の教授達と工・農の斎藤委員長をはじめとする学生側代表との激しいやり取りが展開された。

集会の後、インターを合唱十二時半近く学部長を含む八人の教授団を先頭に約一〇〇名の学生が学門をデモ行進した。ボリュームをあげたスピーカーからは「官憲の不当断圧を許せないぞ！生田の学生は戦うぞ！」という、いつになく激昂したシュプレシコールの連呼を生田の森に轟かせた。その後デモ隊は二時より駿河台校舎で行なわれる集会へ参加のため生田駅から御茶ノ水へと向った。

（M）